

平成30年度からの 診療体制等について

新年度のスタートにあたり、4月から新しく変わった診療体制等について、皆さんにお知らせします。

新院長就任

3月末に定年退職を迎えた濱崎尚文前院長に代わり、新年度は、かつて智頭病院に勤務されていた自治医科大卒の秋藤洋一先生が院長に就任し、内科の診療にもあたります。



外来診療

濱崎先生には、引き続き内科の診療にあたっていただきます。

また、櫻井診療部長は鳥取市立病院へ、中瀬医師は県立中央病院へ異動しました。後任に岩美病院から中山剛先生、市立病院から尾坂妙子先生が着任しました。

なお、尾坂先生は平成27年度にも当院で勤務歴があり、二度目の智頭病院勤務となります。引き続き在任される中山明香里・戸杉・谷口各医師を含めると、内科は常勤医師が7人となり、これまでと同じく4診体制で診療を行います。

その他の診療科については今まで通りとなっておりますが、詳しくは今月の「広報ちづ」折り込み【智頭病院外来診療日程表】をご覧ください。

病床再編

平成30年度の診療報酬の改定で廃止が決定されていた療養病床は、看護職員の配置を25対1

から20対1へ手厚くすることで、引き続き現状の病床数・病床区分を維持することになり、新年度も、急性期・回復期の一般病床52床及び慢性期を担う47床の療養病床、並びに在宅復帰を担う介護老人保健施設ほのほの45床で運営を行います。

在宅療養・生活支援

在宅部門の充実を図るため、新年度から歯科を開設しました。

3月まで鳥取市立病院に勤務されていた久保克行先生が常勤医として着任され、訪問診療を中心とした歯科診療を行います。ついては、入院患者及び介護老人保健施設ほのほの入所者への診療も併せて行うため、歯科診察室を外来部門に設けました。

さらに、在宅療養の支援を進めるため、訪問リハビリテーションを開始しました。

これにより、通院が困難な人や退院後に自宅で運動機能訓練が必要な人の在宅生活の支援がより一層推進できる体制になりました。

地域包括 ケアシステムの推進

以上のとおり、当院は、今後増え続ける在宅医療のニーズに応える体制の充実を図ることで、智頭町の地域包括ケアシステムの構築を推し進めます。これからも町民の皆さんが住み慣れた地域・自宅で安心して暮らすことのできる仕組みづくりを積極的に支援してまいります。

一緒に働いて見ませんか 看護師・介護職員 募集のお知らせ

- ◆看護師（常勤）
- ◆介護福祉士（常勤）

いずれも若干名

※交替制勤務、パート就業等の勤務形態については、面接時にご相談に応じます。
総務課 ☎75・3211まで

幸せは見つめ愛育み合い

小児科 大谷恭一

三月号の「育ちモデル」を、もっと知りたいナ。

氷山に例えたモデルは、海面下の育ちは、見えにくいけど、人が育つ上での基盤で、一方、見え易い海面上の能力に囚われないようにとの願いも込められているのよネ。

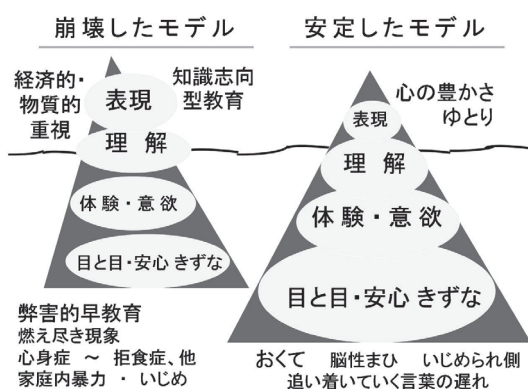
そう、例えば、学校のテストは、学んだ知識等を決められた形で表現するよネ。

が、自主性や思いやりなどは、知識として教えられて、本物が得られることはない。アッ、そうか！赤ちゃんが分かり易い。目と目・安心・きずななどの人として育つ上での関係性の基本は、お母さんやご家族と赤ちゃんが触れ合う時間と質が影響する。私も同感よ。人と人の信頼関係・共感性が安定的に育まれる体験がやがては意欲につながり、自主性も育つのだわ。他人に指示されてではな

く、自分で考えて言動するようになるのね。家族や地域の方々との出会い・育み合いが生涯を見通して、大切な資質を育てることになるのだワ。

そう、海面下の見えにくく、評価しにくい能力が安定的に育つと、海面上の見え易く、評価がし易い能力も高まってくる。学校のテストや入学試験など多種多様な選抜をする上で、評価し易いのが海面上の育ち・能力と言えま

す。今月は、二つの育ちモデルも参考にしてみましよう。図を見て考えることは？



安定したモデルは、評価し易い海面上の能力は小さいよっただけで、海面下の能力が豊かにと育っている。大丈夫で、せかすことはない！

崩壊したモデルで思うのは、子どもの立場を軽んじて、大人が求め過ぎるとかで、海面上の能力は高そうだけど、将来が心配カナ...

モデル図には、象徴的なコメントも記載してあるの、想像し易いかと思います。あくこの例では、幼児期の話し言葉が遅い子の場合もあるのネ。難聴でないことが基本でしょうが...

バーンアウト、つまり、燃え尽き現象も崩壊したモデルで説明できるのだネ。子どもが親の期待を裏切らないように懸命にガンバッテ努力する日々が破たんが生じた...

心が不安定になる学童期から思春期はとくにそうですが、失敗などが契機になり、心のゆとりが萎えると頑張り力も削がれ、崩壊します。

大切な「自己肯定感」・「自己満足感」が乏しくなり、自

己否定に陥ると、燃え尽きや、やる気が萎えてしまいます。今日「人生百年」が唱えられています。幸せな人生とするためには、「育みの郷」にも関連しますが、乳幼児期からの子育て環境が影響します。

一方、大脳は成人期も育ち続けるので、「育ちモデル」は、年齢を問わずに大切にして欲しいのです。生活習慣病で、大脳の機能低下を来すとか、高齢になり認知症が始めたとしても、その人の自尊心を傷つけないような、つまり、「自己肯定感」・「自己満足感」を大切にする関わり方が願いになるのです。

そうか！年齢を問わず、海面下の資質を大切にしたら関係性や自己啓発が「人生百年」をみる上で肝腎なのだ！

健康寿命を考える上で、生活習慣病対策もですが、海面下の「目と目・安心・きずな」と「体験・意欲」はかけがえのない要素なのネ。

ステキなまとめに感謝！